

お答えいたします。

平成24年に開催された会議というか説明会ですね。当時、私、防災室におりましたので、防災室の立場で参加を、福祉事務所の職員と一緒に参加しております。

ただ、申し訳ありません。大変前のことなんで、会議の詳細については、はっきり記憶しているわけではございません。

それで、災害救助法が適用されるということは、ワンポイント、ほんの小さい範囲で災害が起きたということではなくて、広い範囲に大きな災害が起きると。こういう状況があるわけでございます。この大雪に対しては、資力のある、ないにかかわらず、雪は同じように降りますので大変なわけですが、かといって気持ちとしては、みんなの雪を掘ってあげられればいいんですが、一定の基準を設けて、やはりどうしてもやる手段がない人について、手助けをしなければならないというのが、法の趣旨だというふうに思っております。

そこら辺を考えながら、やはり国のほうでは、原則は資力、それから労力がない人としながらも、やはり柔軟に対応できるように会議の中でそういう文言というか、言葉になったというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

災害救助法の適用世帯が、適用対象が増えれば増えるほど、労力はますます必要になるわけであり。これを、その労力がそこへ入るには、道路除雪が本当に大事になってきます。幾ら労力が海岸端にあっても、奥まで車が行けないような状態では困ります。ぜひとも道路除雪のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、災害救助法は、先ほど小林さん言われたように柔軟に対応するべき、そこは聞いております。以前に、資力の問題をなくす。そういうことがあったもんですから。

以上で、終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、佐藤議員の質問が終わりました。

13時35分まで暫時休憩いたします。

〈午後1時29分 休憩〉

〈午後1時35分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本 剛です。

1回目の質問をさせていただきます。

1、私が過去に行った一般質問のその後について。

私が過去に行った一般質問のその後について、以下伺います。

(1) 平成30年に北海道胆振東部地震で北海道全域が大停電しました。糸魚川市は、50ヘルツの最も西の端に位置しています。自然災害で、送電線事故等により供給が途絶える可能性があります。そこで、市内の発電所を有する企業から、万一の場合に供給できないかと平成30年12月定例会で質問をしました。

また、その後、平成元年10月には、台風により、千葉県内で送電線が倒れるなどにより、二十日間程度の大停電も発生しております。この糸魚川市でも、いつ何があるか分かりません。このような状況をどのように考えているか、以下、伺います。

(2) 平成31年3月定例会では、県施設のある青海シーサイドパーク「ドームなぎさ」において、登録団体のみが対象ではありますが、冬期間に球技などの使用が可能になった件について質問をしました。

その後の状況について伺います。

(3) 令和元年9月定例会では、平成31年度の全国学力・学習状況調査の結果について質問をしました。

その後、令和2年度の学力・学習状況について伺います。

また、陰山メソッド導入後の成果と問題点について伺います。

(4) 令和2年3月定例会では、豪雨災害が多発する中、河川の水位計等について質問をしました。

その後、水位計等の増設があったのか。また、河川監視のカメラ設置についても提案しました。

その後の状況を伺います。

(5) 令和2年9月定例会では、こどもフリーパスの高校生への拡大について質問をし、提案をしました。

今年度に導入する考えがあるか、伺います。

(6) 令和2年12月定例会では、田海ヶ池の調査について質問をしました。

来年度の予定等について伺います。

初めの質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、市内の企業で発電された電力は、送配電事業者を介して送電されており、市内の発電企業から直接供給受けることはできないとお聞きしております。

2 点目につきましては、平成31年2月から3月末まで試行的に開放されたものでありましたが、利用はありませんでした。翌年以降におきましては、利用の希望がなかったことから解放しておりません。

3 点目につきましては、今年度は全国一律の学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の関連で中止となりましたが、全国学力標準テストは例年どおり市内全小中学校で1月末に実施し、現在集計中であります。

また、陰山メソッドにつきましては、音読、まず計算、漢字学習を短時間で集中して行い、基礎的な学習を毎日のように繰り返し行うことで得られる基礎学力の定着と集中力の向上が図られることから、今後も継続してまいります。

4 点目につきましては、今年度、県管理河川において、水位計が4か所、監視カメラが6か所、新たに設置されております。

また、国が管理する姫川では、既設の監視カメラについて、12か所、高感度カメラへの更新が行われております。

5 点目につきましては、フリーパスを実施した場合、鉄道利用者との公平性が、市の財政負担が課題となっており、引き続き、検討してまいります。

6 点目につきましては、田海ヶ池の外来生物の駆除や生態系を保全する事業を引き続き、行ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

2回目の質問をさせていただきます。

まず、北海道の停電と千葉の停電、どのような捉え方しているか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

やはり大規模な災害でございましたので、広範囲にわたりまして長期間にわたる停電というのは大変なことだったと思っておりますし、同じことが当市内に起きても非常に大変なことであるというように感じるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、デンカにおりまして、電気関係少し皆さんより詳しいのかもしれませんが。そんなところで、北海道のときは、いわゆる発電所が地震だったと思います。それでかなり止まりまして、最終的に苫小牧の発電所が残ったんですけど、需要と供給がアンバランスになりまして、東北電力のほうから、多分送られてくるんだと思うんです。でも、その回線があまりにも細過ぎて弱過ぎて、結局、需要と供給のバランスが崩れまして、大停電になったというふうに考えております。

千葉のほうでは、送電線が切れまして、向こうに発電所がない関係で、やはりかなりの長い期間というように思っています。

電気には上方、上も上流も下流もありませんで、発電所が常に上流で、そういう面では、この糸魚川では、前回のときは新潟の発電所から来てるという話は聞かされました。

実は、私、デンカにおりましたんで、デンカのセメント工場、多分、明星なんかもそうだろうと思うんですけど、窯で焼いたクリンカという、こういう石みたいなのができます。それを粉砕してセメントにするんですけど、その粉砕は、夜間電力を使って安価な電気で製造しております。ですから、昼間はできるだけ電気を使わない。夜の安価な、その安価というのはどういうことかといいますと、発電所が、火力発電所とかというのは一定の、例えば3割ぐらいまでは落とせるけど、それ以下は落とせない。だけど夜中になると、ほとんど電気使わない。その電気が安価ということで、企業に回されると。その契約の中に、万一、一般の方の電気とかそういうのが少ない場合には、もう途中ででもそういう企業向けの電気は止めるよというような契約内容にも入っているんですね。

そういう面では、糸魚川に二つの企業があつて、発電所を持ってるというのは強みだと思うんですね。現実には、かなり糸魚川の中で送電網が網の目のようになっていて、今現在では、市長が言われるように、もしかしたら東北電力との契約がない関係で使えないかもしれませんが、今、東北電力の回線とデンカがつながってれば、東北電力と一般の市民の我々のところにもつながると思います。そういうことが可能だというふうに、私は考えてるんですね。だから、そういう面では、もう一度、東北電力等含めて検討して、やはり万一の、この4年間の間ぐらいに本当に大きな停電があります。この豪雪のときでも、東北なりそこらでもアンバランスでかなり厳しい状況だったということが放送されてますんで、そこら辺りもう一度、東北電力なり、そういうところと協議するという考え方はないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

現状を申し上げますと、発電所で発電された電気というのは、やはり高圧でありますので、変電所というのを踏まえて、各家庭内ではお送りされてるというのが現状でございます。そのためには、送電線なり配電線というのが整備をされております。いわゆる変電所であるとか送電線、配電線を取り扱うというのは、いわゆる送配電事業者という、いわゆる資格を持ったといいますか、認可されたところでしかできないというような現状でございますので、その変電所なり送電線なりが、例

えば東北電力さんのものをお借りできるかとか、そういう形の部分も含めまして、東北電力とはいろいろお話しをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

何度も繰り返すようですけど、私は可能なんではないかなと。わざわざ例えば送電線を造るとかということじゃなくて、現在ある送電線の中ね。

ただ、北海道地震みたいに線の太さがあるかと思います。そういうことによっては使える電気が決まるのかもしれませんが。でもそういうのは可能だというふうに考えてるんですね。そういうことで勉強していただいて、ぜひとも前向きに捉えていただければというふうに思います。

ちなみに、私、デンカセメントにおりましたんで、セメントで私、四十何年前ですけど、最大5,300キロワットのモーターを運転しておりました。5,300というのかなりの、やはりそういうときは、スタートするときにはほかのところと、いわゆる発電所関係と全部つないで、電圧降下が起こさないような、やはりそういうこともやってますんで、送電、いわゆる配電、そこら辺りも含めて、変電も含めて検討すれば十分可能ではないかというふうに思いますんで、前向きに捉えていただければというふうに思います。

その点、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほどもお答えさせていただきましたが、送配電事業者が別になってまいっております。そういう中において、通常では、絶対そういう直接はなかなか難しいようなことを今は感じるわけですが、また、災害時においてはいかがかということなるわけがあります。そういう中で、送配電線が、災害、被災を受けなければ、そして、よそと断絶された場合にはどうなるのかということが考えられるわけがありますし、局部的なところになってくると、なかなか今、言ったように変電所というのはどうなって入っているかというのがあります。その辺は、どこが災害受けて、どういう形でとかというのは、我々、まだ研究してはございませんが、市内の中の地形においては、非常に複雑な地形でございますので、被災を受けたときにはどうなるという、そういう非常にシミュレーションを数多くやらにやいかんのだと思いますが、そういったところを余裕があったら、そういったところも調べながら、どこが災害受けたときに、そして、外から電気が来なくなったときに、この中でどう電気を活用していくかというようなところは、また、研究をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

どこの市町村も非常電源は確保してると思うんですね。でもやはりこれほど、今のこういう気象状況では、本当に大きな災害が起きる可能性というのは十分考えられます。そうなったときには、非常電源では、やはりなかなか難しい。そうなったときにはやはり、この市内特有の発電所を持つ企業がありますので、やはりそこら辺りと使えるのか使えないのかを含めてやっぱり検討して、市民の安心とか安全のためにやるのが重要ではないかというふうに思いますんで、ぜひとも前向きな検討をお願いしたいと思います。

次に、なぎさドーム、伺いました。試行的にやったんだけど、使用がなかったということで、改めて聞きました。実際に市民からは、まだやはりそういう声はないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

お答えいたします。

ドームなぎさの開放につきましては、平成31年3月の定例会で一般質問がございまして、そのときも申し上げましたけれども、ジュニアスポーツ団体から、冬期間、練習場所に施設を利用したいというような申出があったということで記憶いたしております。

市長答弁でも申し上げましたけれども、平成31年2月から3月末まで試行的に開放いたしましたが、その間に利用の申出が1団体からあったわけなんですけど、その団体の方は、結果として利用しなかった。ほかの市民の方からも、利用したいという要望はございませんでした。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

冬期間で、やはり寒いから、かなりやはり難しいのかなと思いながら、できればこういうような施設は、使ってこそ施設だと私は思ってますんで、やはりたとえ県の施設でも使えるような方向にというふうに思ってます。

ただ、要望がなければ仕方がないという考え方もあるんですけど、できるだけ使っていただくことが、やっぱり施設として一番いいんじゃないかというふうに考えますんで、そんなことで県とも話していただければというふうに思います。

次に、学習状況のお話をさせていただきたい、学力のほうですけど。

今年は中止ということで、1月の集計中ということなんですけど、集計の途中ですけど感覚的なものというのは何かありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

先ほどお話のあったとおり、現在1月末に行われた学力テストに、結果につきましては集計中であり、まだその結果については、事務局のほうにも入ってきておりませんので、ここではちょっとコメントをすることは、ちょっと差し控えたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

それでは、陰山メソッドについてちょっと。私、いろんな小学校行って、いろんなお話をやはり校長先生から聞いてるんですけど、かなり肯定的に捉えてるのは現実だと思います。

でもやはり、一部クエスチョンマークというか、私自身もどんな制度でもどんな方法でも、やっぱり100%全部全てがいいということは、まずないというふうに思ってます。やはり7割ほど得るものがあれば、失うものも3割ぐらいあるんじゃないかと、私は考えてます。そういう面では、今年度で5年目ですか、来年度でちょうど小学校6年間になるよと思ってます。そこから、どこかでやはりその成果等、いろんなことを検証する必要があるかというふうに思うんですけど、その点、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

陰山メソッドに基づく、特に音読、ます計算、それから漢字練習等の繰り返し学習によりまして、特に低位から中位の子供の基礎学力の向上が見られる状況であり、全体的な底上げがなされていると今のところ考えております。これまでの取組によって、メソッドとして示されている方法を成立させるためには、それぞれ単純に導入するだけではなくて、各学校において児童の実態に基づいて、細やかな工夫や手だてがやっぱり必要になってくるのが分かってきています。

その工夫や手だてというものは、今後、校長会等とも連携を図りながら、各校において基本を徹底しながら、それぞれの創意工夫によって、細やかな工夫が一層なされるように進めていきたいというふうに考え、校長会等とも合意が図られております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私も総務文教常任委員会でも、陰山メソッドでいろいろ見学させていただいてます。本当に子供たちが、あの瞬間に集中力を見せるということではすごいことですし、やはり校長先生の評価も、そういうところで一度集中力を見せることで騒ぐというか、いわゆるそういうものがなくなって、す

ごくいいというふうに言われてます。そういう面ではすごく効果があったのかなという一面の中で、やはり何かどうしても出遅れる方もいるし、いろんな部分でという話も聞きますので、やはりどこかで成果とあれ、必ずしも陰山メソッドを完全に受け入れるんじゃないくて、糸魚川独自の陰山メソッドというか、それを糸魚川メソッドにするのもいいのかもしれない。やはり何かそういう方法が必要ではないかなというふうに感じているんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

糸魚川市が進めております子ども一貫教育においては、学力向上の目標としては、あくまで主体的に学び続ける力の育成ということであります。単に知識や技能、あるいは思考力、表現力、判断力を育成するのではなくて、それを生かして、生涯にわたって学んでいく意欲や人間性を育てていくということが、主たる目標です。そのために糸魚川市の学力向上プランというものを作成しまして、一つは、陰山メソッドを活用した基礎学力の定着と集中力の向上、もう一つは、主体的・対話的で深い学びを実現するための事業改善、その2本柱で学力の向上を図っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございました。

次に、5番目のこどもフリーパスの件ですけど、押上ひすい海岸ですか、駅があれば鉄道利用者等もありますけど、私は将来的には、いわゆるえちごトキめき鉄道も含めたフリーパスということをやっぱり考えるべきではないかというふうに考えとるんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今現在もマースというような形で、家を出てからのそれぞれの交通モードをもう一体的な流れとして取り組むというようなやつをもう、先進事例として幾つかの自治体では、もう既に組み込まれておる状況でございます。

糸魚川市のほうに関しましては、まだ電子決済とか、その辺もまだおぼつかないような状況でございますが、今、先進事例というものは非常にたくさんございますので、その辺の研究情報収集というのを常にやってまいりたいと思っておりますが、なんせ初期投資にもかなりコストもかかりますので、その辺は今の現状のご利用具合と当市のバランスと、その辺も考えながら進めていく必要



はあるんじゃないかなというふうに考えてます。その中で、鉄道とバスというような連携、一連の流れとしてのバス、そういうものも必要になってくるんじゃないかなというふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

この件、いろんな父兄に聞きますと、やはり今、中学生が高校へ進学するときに市外に結構出てるんですけど、こういうことがあったら市内の高校にという話をよく聞きます。そういう面では、やはり糸魚川から糸魚川のある高校につなげるという意味でも、一つの大きな武器ではないかと思えますので、前向きに捉えていっていただきたいと思えます。

4番は、途中で抜かしましたよ。河川のほうで水位計の件、4か所、6か所、高感度のあれが12か所ということでもかなり前向きに進んだというんですけど、その点まだ不十分なのか、それとももっとというふうに考えているのか、ちょっとその点伺いたいというふうに思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、国、姫川のほうでございしますが、河川管理者としては、今現在、水位計ですとか河川監視カメラの設置というものを今の状況でも治水上は十分であるというふうに、これ以上の増設の計画は今のところはないということでございます。

ただ、今後、維持管理を続けていく中で、必要性に応じては、当然、設置を検討していかなければならないというスタンスを取っております。

一方、県のほうの河川ですが、今県のほうでも今後、何河川かで増設を今、水位計、監視カメラ等、増設を予定しておるそうですが、なんせ全県的に見て、優先順位づけがされるので、すみません、県のほうは水位計1か所、簡易型の監視カメラ2か所、まだこれから必要だということなんです、来年やる、再来年やるという、その時期というのは、全県的な順位づけになるということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、あんまり今の電子機器とかこういうふうなものに詳しくないんですけど、やはり安心という部分では、河川の水位が目で見える。水位計で何センチになったといってもびんどこないんですけど、やはり例えば姫川ですと、姫川から姫川橋の橋の下何メートルになったとかと、目で見えることによって一番市民が安心感を持てるんじゃないか。やはりそういうふうな一般の、自分で見なき

やいけないSNSとかじゃなくて、通常、皆さん見てるテレビみたいなものに映すような、やっぱりそういうことが最も安心につながるんじゃないかと思うんですけど、そこら辺りかなり難しい部分もあるんだと思うんですけど、その点どのようなお考えあるのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

以前、この関係の質問で、有線テレビ等の関係映せるような検討はどうだというようなご提案もいただいたところですが、やはり今のカメラというのは、スマホですとかパソコン程度の小さい画面で見るということを前提にしとるような画素とデータ量なんだそうです。テレビのような、もう30、40、ああいうでかいところに映し出そうとすると、そもそもデータの容量とかがかなり大きくしていかないといけないということなので、今のまんまであれば、少しテレビでの視聴というものはなじまないということなんだそうでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、議員になって1期目なんですけど、答弁の中で、いわゆる市民に対する広報といいますと、皆さんインターネットで見てください。広報にあります。やはりそれを一点張りと言いつつちょっときついかもしれませんが、そういう面だけじゃなくて、やはりそういうふうなところへまでもやっぱり考えていかなきゃいけないんじゃないか。皆さん、SNSだとか今のインターネットなんかも、全部自分で見ようとしないうり見えないうりですよね。でも私、いろんなお宅へ訪問しても、ほとんどの家庭は、うちでテレビをつけてますよ。それを真剣になって見てるかというのと、例えばドラマみたいなものは真剣になって見てるんだと思うんです。でも後は、何気なくバックグラウンドミュージックみたいに、そん中で糸魚川という、みんなぱっとこう見るんだと思うんです。そういう効果というのは、テレビにあるんだと思います。

だから、そういう面では、やはり市も、ただ広報で出す。インターネットで見てくださいじゃなくて、いろんな情報をやはりそういうところで、見るきっかけにもなるような、やっぱりそういうことを考えていかないと、安心という部分にはつながらないんじゃないか。かなりの経費もかかるかもしれませんし、いろんなことなんですけど、前向きに検討していただきたいと思いますと思うんですけど、この点、市長はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほどのデータ容量というなお話もしましたが、私もそれは聞いてしゃべっておるだけで、じゃあ実際それに対して、それを実現するとしたら、どういうことをしなければいけないか。若干いろいろメモももらったんですけど、すみません、ちょっと理解もできないような内容でございました。だったら、糸魚川市のホームページで能生川のライブカメラの映像は、ケーブルテレビのほうでも閲覧できるというような状況も聞いておりますので、その辺はまた、市役所の職員にも専門家の人間がおりますので、もうちょっと研究してみたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えします。

議員ご指摘のように、テレビの影響というのは非常に大きいものだと思っております。やはり全てが、そういったタブレットとかスマホという形にはなっていない部分もあるのかもしれませんが。

しかし、これから高齢化の中においては、情報量というのは全然違うものでございますので、そういったところはこれからの市民生活にもかなり波及していくだろうし、また、それを進めていかなくてはいけないと思っております。

そういう中で、今言ったような自然災害の発表といいたまいますか、伝達とかそういったものについても取り組んでいかなくてはいけないと思っております。テレビにおいて、じゃあそれがまた、これからの中でもなるべくならテレビも入っていけるような情報環境にも、またあるのかもしれませんが。そのところを研究もしてみたいと思っております。

しかし、基本的にはこれからは、タブレットやSNSのそういったスマホみたいな形のほうでいろんな情報、行政のこれからサービスもしていかなきゃいけないんだろうと思うわけでございますので、そんなところと一緒に出していければと思つる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ある方に伺いましたら、このいわゆるスマホとかそちらのほうからテレビに映すこともできるようなことも言ってましたので、どこまであれなのか、私詳しくありませんけど、やはり研究して、市民への安心ということではやはり大事なんではないかと思えます。前向きに検討していただければというふうに思います。

最後に、田海ヶ池のほう、予算も通らないとあれなんだけど、もう少しちょっと詳しく教えていただければと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

まず、本年度の事業につきましては、テレビやなんかを見ますと、刺し網が失敗したとか地引き網が失敗したとか、そういった情報ばかり流れておりますが、実際には、外来種のほう 8 種、428 個体を駆除しております。

また、植物におきましては、環境省と新潟県のレッドデータブックに記載がある希少種が 8 種類、また、トンボにおきましては、希少種 5 種類を含む 33 種類が確認されております。

ただ、これは 1995 年に確認された 48 種類と比べますと、減っているという状況であります。新たに 1 種が新種として見つかったという情報もありますけれども、いずれにしましても外来種の影響というのがでかいというふうに思っておりますので、次年度以降も駆除活動に力を入れていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3 番（山本 剛君）

最後に残されたというような言い方もされるかもしれませんが、田海ヶ池、トンボあたりがかなりと言われますので、ぜひとも毎年続けて、やはり外来種の駆除に努めていただければというふうに思います。

私の質問は、これで終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

担当入替えのため、14 時 15 分まで暫時休憩といたします。

〈午後 2 時 08 分 休憩〉

〈午後 2 時 15 分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、滝川正義議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

滝川議員。〔6 番 滝川正義君登壇〕

○6 番（滝川正義君）